

# 「今後の道徳教育の充実に向けて」

～教科化に向けて、  
各学校で取り組んでいただきたいこと～

## 道徳の教科化に向けての学習指導要領改訂スケジュール

26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度～ (2018～)
<p>10月</p> <p>中教審 審議</p> <p>10月</p> <p>答申</p> <p>9月</p> <p>学教法施行規則改正・学習指導要領改訂 ※事前に約一か月のパブリックコメントを実施</p>	<p>7月</p> <p>学習指導要領 解説公表</p> <p>7月</p> <p>児童生徒の学習態度 等について(道徳の改善)</p> <p>7月</p> <p>評価に係る検討</p> <p>※ 改正学習指導要領に関する教師用資料の作成・活用</p>	<p>27～29年度 移行期間</p> <p>改正学習指導要領の総則、「特別の教科 道徳」の 趣旨・内容を踏まえた取組が可能</p>	<p>「特別の教科 道徳」 による 教育課程編成等</p> <p>全面実施 小学校 H30～ 中学校 H31～</p>	<p>検定教科書</p> <p>著作・編集</p> <p>検定</p> <p>採択・ 供給</p> <p>検定教科書 使用開始 (中学校は H31～)<sup>2</sup></p>

### 授業の在り方を見直した方がよい授業とは ①

#### 読み取り道徳

読み物資料の  
登場人物の  
心情解に  
終始する授業

気持ちの変化を捉える  
気持ちに共感させる

#### 考える道徳

自分との関わりで  
道徳的価値を  
考える授業

自分自身を見つめる  
人物に自我関与して自分と  
の関わりで考える

※ 決して今までの道徳の全否定ではない。  
読み物教材を使っていけないということでもない。

### 授業の在り方を見直した方がよい授業とは ②

#### 押し付け道徳

望ましいと思われ、  
決まりきったことを言わ  
せたり、書かせたりする  
授業

何が大切か  
どうすることが望ましいのか

#### 考える道徳

自分との関わりで  
多面的、多角的に  
考える授業

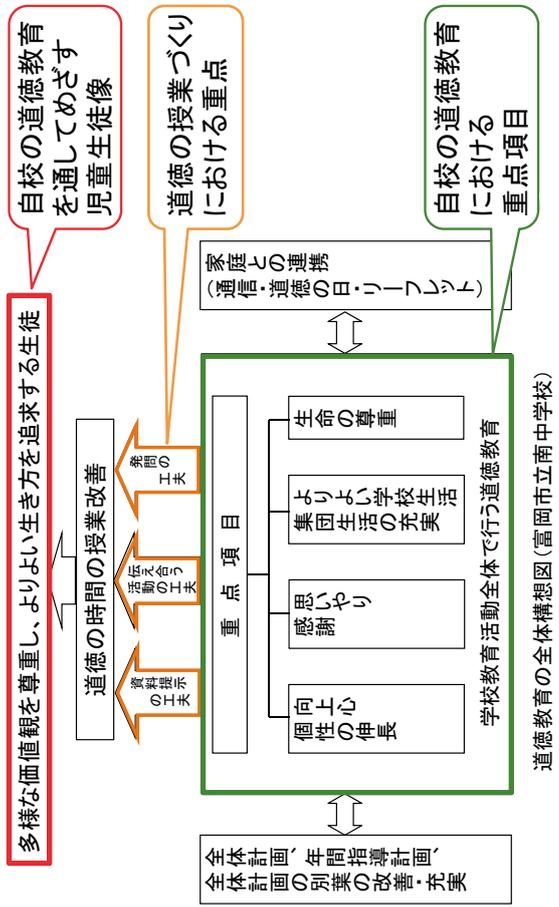
どのようなわけで大切なのか  
どうすることが考えられるか

児童生徒はおおよそ分かっている

教科化に向けて  
取り組んでいただきたいこと

- その1 道徳の時間の指導体制の充実
- その2 道徳の時間の授業改善
- その3 道徳の時間の評価
- その4 全体計画、年間指導計画の整備
- その5 家庭や地域社会との連携

自校の道徳教育の方針が明確になっていますか？



その1 道徳の時間の指導体制の充実

校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。  
(改正学習指導要領解説 小学校P83)

学級担任の教師が行うことを原則とするが、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。  
(改正学習指導要領解説 中学校P84)

道徳教育推進教師を支える校内の体制づくりができていますか

アイ ウ エ オ カ キ ク  
道徳教育推進教師の役割

道徳教育の指導計画の作成に関すること  
全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること  
道徳の時間の充実と指導体制に関すること  
道徳用教材の整備・充実・活用に関すること  
道徳教育の情報提供や情報交換に関すること  
授業の公開など家庭や地域社会との連携に関すること  
道徳教育の研修の充実に関すること  
道徳教育における評価に関すること

これらの役割を教員全員で分担し、道徳教育推進教師が全体を意識して各担当の取組を調整したり、助言したりしていくようにすることが大切である。

※小学校学習指導要領解説 道徳編 平成20年8月 P64

## その2

## 道徳の時間の授業改善

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(改正学習指導要領解説 小学校P15、中学校P13)

## 道徳教育の課題と特別教科化がめざすもの

(「道徳教育の在り方に関する懇談会」報告書(H25.12.26)における指摘より)

### 量的課題

- ・歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮がある。
- ・他教科に比べて軽んじられ、他の教科等に振り替えられていることもあるのではないか。

年間35時間単位  
時間が確実に  
確保されるという  
**量的確保**

### 質的課題

- ・教員をはじめとする教育関係者にもその理念が十分に理解されておらず、効果的な指導方法も共有されていない。
- ・地域間、学校間、教師間の差が大きく、道徳教育に関する理解や道徳の時間の指導方法にばらつきが大きい。
- ・授業方法が、読み物の登場人物の心情を理解させるだけなどの型にはまったものになりがちである。
- ・学年が上がるにつれて、道徳の時間に関する児童生徒の受け止めがよくない状況にある。

子どもたちが道徳的  
価値を理解し、  
これまで以上に  
深く考えてその自覚  
を深めるという  
**質的転換**

## 日々の道徳授業の量的確保を



## 道徳授業の質的転換を

## 考え、議論する道徳

主体的に  
考える  
自分との関わりで

多様な考え方、  
感じ方と出会い  
交流する

自分の考え方、感じ方  
を明確にする

自分の考え方、感じ方  
をより明確にする

## 「考え、議論する道徳」とは？

二項対立を  
例に

モラル・ディスカッション
「AかBか」を議論する
二つの選択肢の一方を選ぶ のではなく、よりよい解決や 合意を求めて学び合う
自分と異なる考えから 学ぶことを期待する
つながり合って よりよいものをめざす議論

参考：「特別の教科 道徳 Q&A」(松本美奈／貝塚茂樹／西野真由美／合田哲雄)

## 道徳授業をどのように構想するか

「明確な指導観」をもつとは…

- 1 ねらいとする道徳的価値(道徳の内容)について、学習指導要領に基づき、明確な考えをもつ。
- 2 明確な価値観を基に子供たちにとどのように指導し、子供たちが何を学び、その結果としてのよさや課題を確認し、本時で学ばせたいことを明らかにする。
- 3 授業者の明確な価値観、児童生徒観をもとに、教材の活用の仕方を明らかにする。

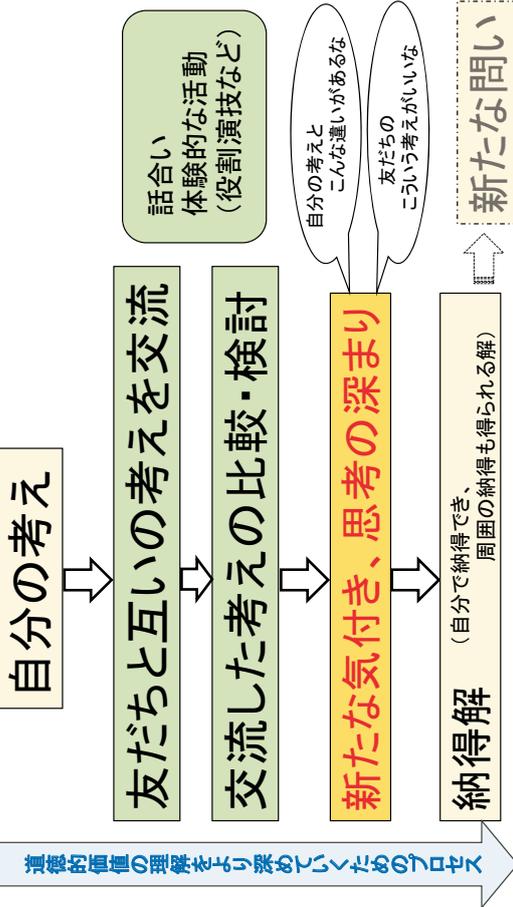
価値観

児童  
生徒観

教材観

指導観

## 「考え、議論する道徳」とは？



学校の道徳教育の重点目標

学校の道徳教育の重点内容項目

教育活動全体で行う道徳教育

教育活動全体で行う道徳教育の  
結果としての子供の実態

児童生徒に考えさせたいこと、学ばせたいこと

児童生徒に考えさせたいこと、学ばせたいこと  
に基づく教材活用

登録人物への自習与

問題解決的な  
学習

体験的な学習

...

指導観

授業者の  
価値観

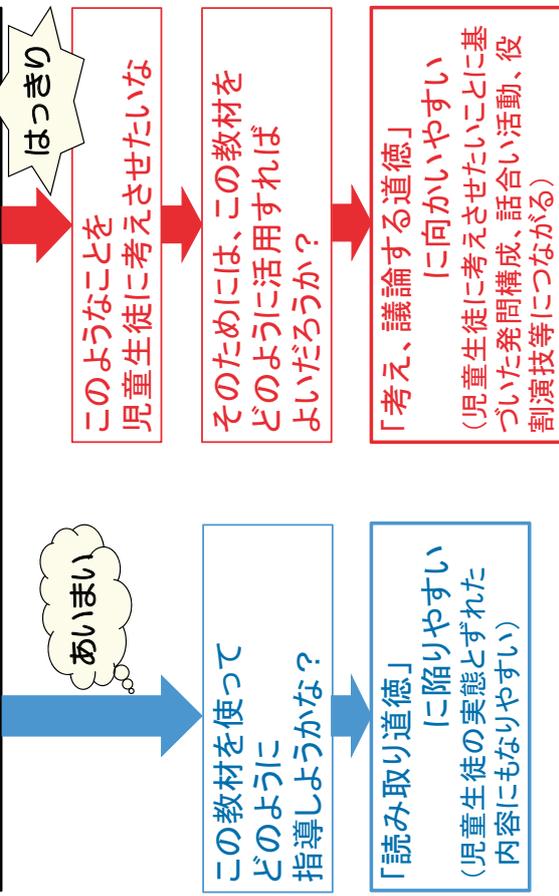
児童  
生徒観

教材観

道徳的諸価値の理解の基に、自己を見つめ、物事を多面的・  
多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習

授業の実施

## 児童生徒に考えさせたいこと、学ばせたいこと



## 「私たちの道徳」の活用①

### ～多様で効果的な指導方法の工夫～

### 改正学習指導要領の内容の先行実施に向けて

## 質の高い多様な指導方法【例】

読み物教材の登場人物への自己関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習
教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深める。	児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することを通して、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
道徳的価値に関する内容の提示	問題の発見や道徳的価値の想起など	道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など
登場人物への自己関与	道徳的な問題状況の分析 解決策の構想など	道徳的な問題場面の把握や考察
道徳的価値と自分との関係での振り返り	解決策の選択や決定 諸価値の理解の深化 課題発見	問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施
まとめ	まとめ	道徳的価値の意味の考察 まとめ

※ これらの指導方法は、独立した「型」を示したのではなく、多様な指導方法の「例示」である。

## 多様で効果的な指導方法の工夫（「私たちの道徳」の活用例）

【小学校1・2年】道徳の時間

①資料「はしの上のおおかみ」を読んで話し合う。  
 ○うさぎやきつねを追い返して意地悪をしているおおかみは、どのような気持ちか。  
 ○くまに橋を渡らせてもらったおおかみは、どのようなことを思っていたのか。  
 ※役割演技の活用  
 ○おおかみは、くまの後ろ姿を、どのような気持ちでいつまでも見ていたのか。  
 ○うさぎを抱き上げ、親切な行いをしたおおかみは、どのようなことを思ったのか。  
 ○おおかみが言った最初と最後の場面の「えへん、へん。」の言葉に込められた気持ちは、どのようなものか。

②親切な行いができたときのことやそのときの気持ちを話し合う。

◆役割演技の活用

おおかみが、くまに橋を渡らせてもらった場面で役割演技を取り入れ、親切にされたときのうれしさについて考えさせることができる。教師がくまの役になり、児童がおおかみの役になって、橋を渡らせてもらい、くまの後ろ姿を見ているときの気持ちを素感として捉えさせ、そのときの気持ちを表現させよう。したい。

## 多様で効果的な指導方法の工夫(「私たちの道徳」の活用例)

### 【小学校3・4年】道徳の時間

- ①56Pを読んで、知っている挨拶を書き込み、発表し合う。また、その挨拶に込められている気持ちについて話し合い、声に出して挨拶を試してみる。
- ②57Pを読んで、友達と話すときと大人と話すときとは、どのようなことに気を付けて言葉を使い分けられよいか話し合う。
- ③58Pを読んで、振る舞いで気を付けていることについて話し合う。例を挙げて実際にやってみる。
- ④礼儀とは、どのようなことかについて話し合う。



### ◆コミュニケーションに係る具体的な動作や所作の在り方等に関する学習



21

## 多様で効果的な指導方法の工夫(「私たちの道徳」の活用例)

### 【小学校5・6年】道徳の時間

- ①自由とはどのようなことか、自由だからできることは何かについて話し合う。
- ②33Pを読んで、三つの例に関して、自由を生かす自律的で責任ある行動について話し合う。
  - 時間の使い方
  - 小遣いの使い道
  - 目標への挑戦
- ③自由を生かす自律的で責任ある行動ができた経験やそのときの気持ちについて話し合う。
- ④31Pの二つの格言を読んで、その意味、自由だからこそ大切にしなければならぬことについて話し合う。



「私たちの道徳」(小学校5・6年)33P2

### ◆言語活動の充実 問題解決的な学習

## 多様で効果的な指導方法の工夫(「私たちの道徳」の活用例)

### 【中学校】道徳の時間

- ①資料「二通の手紙」を読んで話し合う。
    - 規則に反して姉弟を入園させた元さんの判断に賛成か反対かについて考え、その理由も含めて意見を交流する。また、相手側の意見を聞いて考えたことも述べる。
- ※弟の誕生日だからという姉の思い、また、重大な事故が起きることもあるということについても考慮して考えさせるようにする。
- 自分が元さんの立場だったら、このようなとき、どのように対応すると思うか。
- ②法やきまりはなぜあるのか、それを破ることのできるような問題が起きるのかについて話し合う。



23

### ◆多様な意見や自分と異なる考え方なども踏まえて、多面的・多角的に考えさせることを重視するなど、発達の段階を踏まえた発問の工夫

## 発達障害のある児童生徒に対する道徳科の指導について【例】

学習上の困難がある児童生徒	集中することや継続的な行動をコントロールすることに困難がある児童生徒	他人との社会的関係の形成に困難がある児童生徒
学習障害 (LD) 等 ・言葉の意味や正しい名称を知らないことが多いので、言葉の意味などを丁寧に伝える。 ・提示する教材などには、音声による情報を付け加える。 ・自分の考えを文字で表現したり、文字で書かれた他者の意図を読み取ったりすることが苦手なので、コミュニケーションの方法を文字言語のみに限定しない。	注意欠陥他動性障害 (ADHD) 等 ・適度な時間で活動が切り替わり、注意が持続できるようにする。 ・成長が認められる行動や発言があった場合は、行動や発言のあった都度、評価する。 ・「あと五分」「ここまでやったら」など、短期的で具体的な見通しを示して努力できるようにする。	自閉症等 ・他者の心情を理解するために、役割を交代して動作化や劇化を行う。 ・分かりやすく伝えるために、イラストにしたりせりふを書き込んだりすることができるとする。 ・ルールは明文化する。同時に、本人が理解してもこだわり等により変えられない場合もあると理解しておく。
指導上の必要な配慮		
など	など	など

### その3

## 道徳の時間の評価

**児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。**

(改正学習指導要領解説 小学校P104、中学校P107)

## 道徳科における評価の在り方について

### 【道徳科における評価の基本的な考え方】

○児童生徒側から見れば…自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくもの  
教師側から見れば……教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料

○道徳科の特質を踏まえれば、評価に当たっては、

- ・数値による評価ではなく、**記述式**とすること、
- ・個々の内容項目ごとではなく、**大くりなまとまりを踏まえた評価**とすること、
- ・他の児童生徒との比較による**相対評価**ではなく、**児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価**として行うこと、
- ・学習活動において児童生徒が**より多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**といった点を重視すること、
- ・道徳科の学習活動における**児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること**が求められる。

(平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)

## 道徳科における評価の在り方について

### 【道徳科の評価の方向性】

○指導要録においては当面、一人一人の児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、

- ・**自分と違う意見を理解しようとしている、複数の道徳的価値の対立する場面を多面的・多角的に考えようとしている** 等
  - ・**読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている、道徳的価値を実現することの難しさを自分ごととして捉え考えようとしている** 等
- といった点に注目して見取り、特に顕著と認められる具体的な状況を記述する、といった改善を図ることが妥当。

○評価に当たっては、**児童生徒が一年間書きためた感想文をファイルしたり、1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して変容を見取るのは難しいため、年間35時間の授業という長い期間の中で見取つたりするなどの工夫が必要。**

○道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は、「各教科の評定」や「**出欠の記録**」等とは**基本的な性格が異なるもの**であることから、**調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすることが必要。**

(平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)

## 道徳科における評価の在り方について

### ○個々の内容項目の達成状況

思いやりがどれくらいあるか

国や郷土を愛する心がどれくらいあるか

### ○気付きや深まり、実践への意欲

学習の中で、自分の体験を思い出して、自分ごととして考えようとしている

自分とは違う考えから学んでいる

議論の中で対立する見方を乗り越える視点をそうとうしている

学んだことをどう生かせるかを具体的に考えている

道徳の授業で評価すること

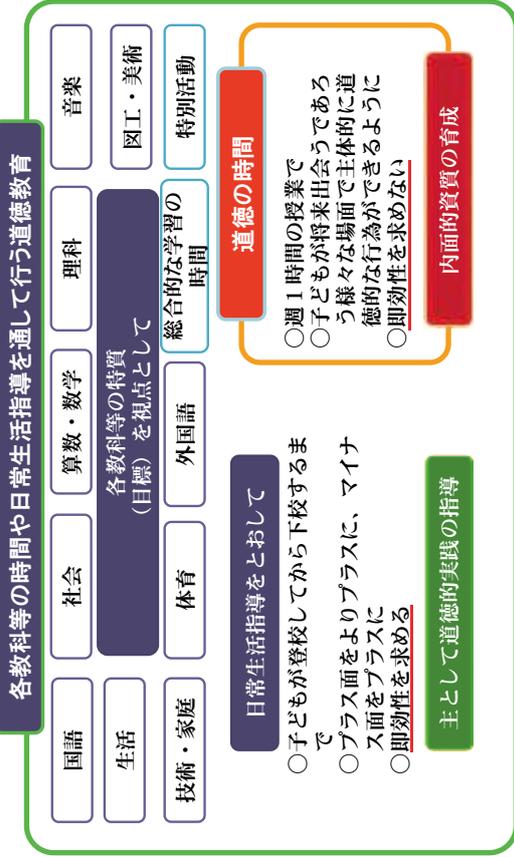
参考:「特別の教科 道徳 Q&A」(松本美奈 / 貝塚茂樹 / 西野真由美 / 合田哲雄)

## その4 全体計画、年間指導計画の整備

各学校においては、道徳教育の全体計画に基づき、**各教科、(外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、道徳科の年間指導計画を作成するものとする。**なお、作成に当たっては、第2に示す(各学年段階の)内容項目について、(相当する)各学年において全体的に取り上げることとする。その際、児童(生徒)や学校の実態に応じ、2学年間(3学年間)を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする。

(改正学習指導要領解説 小学校P70、中学校P69)

## 道徳教育 ……教育活動全体を通じて行う



## 全体計画の別葉の見直し・改善

～伊勢崎市立名和小学校の実践から～



全体計画の別葉を  
学年ごとに職員室に掲示



道徳の時間や他の教科の  
授業実践を踏まえて、  
補充・深化・統合の関連や  
効果の有無の確認



加除修正

## 「私たちの道徳」の活用②

### 新たな内容項目への対応

### いじめ問題への対応



改正学習指導要領の内容の先行実施に向けて

## 新たな内容項目への対応(小学校)

平成28年度版「わたしたちの道徳」の新たな内容項目への対応

学年	新たな内容項目	わたしたちの道徳
小学校 低学年	個性の伸長 A(4) 自分の特徴に気付くこと	・よいところを見つけたよ 「まんががすき」
	公正、公平、 社会正義 C(11) 自分の好き嫌いにとらわれないで接すること	・みんななかよく
小学校 中学年	国際理解、 国際親善 C(16) 他国の人々や文化に親しむこと	・ほかの国のことを知ろう
	相互理解、 寛容 B(10) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること	・周りの人たちと、もっと仲良くするために
	公正、公平、 社会正義 C(12) 誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること	・分けだてをしない
小学校 高学年	よりよく生きる喜び D(22) よりよく生きようとする人間の強さや高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる	・生きる喜びを感じて 「真海のチャレンジ」

## 道徳郷土資料集 「ぐんまの道徳」の活用

「C 郷土を愛する態度」  
「D 自然愛護」  
の授業の充実



～郷土の特色が生かせる教材の使用～

## いじめ問題への対応

いじめに正面から向き合う内容や善悪の判断、信頼・友情、規範意識、公平・公正などの内容を充実

小学校 1・2年	・「およげないりすさん」(読み物資料) ・人としてしてはならないことに関すること
小学校 3・4年	・「同じ仲間だから」(読み物資料) ・人として守らなくてはならないきまりに関すること
小学校 5・6年	・「愛の日記」(読み物資料) ・「いじめられている君へ」(メッセージ)
中学校	・「卒業文集最後の二行」(読み物資料) ・「いじめ撲滅宣言」

## 「C 郷土を愛する態度」「D 自然愛護」の授業の充実

### 1 教材の開発と活用の創意工夫

(2) 多様な教材を活用した創意工夫ある指導

道徳科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならぬことは言うまでもないが、道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる。様々な題材について郷土の特色が生かせる教材は、児童にとって特に身近なものに感じられ、教材に親しみながら、ねらいとする道徳的価値について考えを深めることができるので、地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい。

改正学習指導要領解説 小学校P100

→ 児童生徒に身近で親しみを与える授業を

道徳郷土資料集  
「ぐんまの道徳」の活用

## その5 家庭や地域社会との連携

**道徳科の授業を公開したり、授業の実施や地域教材の開発や活用などに家庭や地域の人々、各分野の専門家等の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。**  
 (改正学習指導要領解説 小学校P97、中学校P100)

家庭や地域との連携の強化の工夫(富岡市立南中学校の実践)

毎月19日を家庭における「道徳の日」に

- ①毎月テーマを決め、関連資料を「私たちの道徳」などから選んで提供し、親子で話題にする機会を設定
- ②日々の実践、生徒の感想や家庭で取り組んでほしいことを載せた「Myハート通信」の発行



- ・保護者の道徳教育への関心と期待の高まり
- ・学校と家庭の信頼関係の深まり

(1)道徳の授業公開

【例】・通常の授業公開による参観や校長による自校の道徳教育についての説明

・授業参観後の講演会や協議会の実施

・保護者参加型の授業公開(児童生徒との対話・意見交換、授業参観者のグループ協議など)

(2)道徳の授業への積極的な参加や協力を得る工夫

【例】・授業実施前に保護者へのアンケートや児童生徒への手紙等の協力依頼

・青少年団体、福祉関係、スポーツ関係、伝統文化継承者など、地域や社会で活躍する人々の授業への協力及び人材リストの作成

教科化に向けて取り組んでいただきたいこと

その1 道徳の時間の指導体制の充実

その2 道徳の時間の授業改善

その3 道徳の時間の評価

その4 全体計画、年間指導計画の整備

その5 家庭や地域社会との連携